



白茶塗踏台 幅27・奥行19・高さ34cm



白茶調杯 径5・高さ10cm



白茶塗高台皿 径36・高さ7cm / 乾漆小椀 径9・高さ6cm



白塗瓶型花入 径12・高さ25cm

KENICHI IWASHITA LACQUER WORK EXHIBITION “REBORN”



黒塗箱 幅27・奥行18.5・高さ12cm



白茶塗箆箱 幅38・奥行26.5・高さ37cm



無塗箱子 径20・高さ26.5cm



黒塗小机 幅49・奥行21・高さ23.5cm / 白塗・茶塗椀 径13・高さ6cm

埼玉県ときがわ町で制作する岩下賢一さんにとって初めてとなる個展です。岩下さんは漆工芸がご本業ですが、今展は少し角度を変えたお仕事に挑戦して頂きました。漆に辿り着くまで多彩な経験を積んでおり、その複合的なものの捉え方が今回の見せ所になります。学生時代は空間デザインを学び、設計事務所で茶室をテーマにした空間づくりに携わったことで日本の伝統文化に魅せられました。その影響もあり盆栽園で植物管理をする職人を体験し、さらに古家具を再生する補修や塗装の剥がしなどの仕事を手掛けます。その実績を踏まえて石川県輪島市の漆芸技術研究所に入所し塗りや蒔絵の基礎を学びました。退所後には東京目白で室瀬和美氏（無形重要文化財保持者）のもとで研出しの手伝いを経験した上で、コロナ禍真っ只中の2021年に独立しました。現在はクラフトフェアなどで漆碗などを発表していますが、今回縁あって弊店で初個展の運びとなりました。漆工としての実績はまだ浅いですが、興味をもったのはそれが置かれる空間との調和、塗り重ねることだけでなく、その加減やあるいは引き算による木の見え方など、従来の塗師とは違った視点も持っている

ことです。今回は古道具や古い漆器の被膜を剥がし、再度加減を踏まえた塗りを行った「再生 (reborn)」をテーマにしています。これはエコやエイジングといった意識よりも、時代によって洗い流された役割をあらためて見立て直す美意識の方が勝るかもしれません。決して立派な骨董ではなく、むしろ簡素で実直な古い物を岩下さん自身が選び、それぞれの土台の素材に合わせて剥がし、塗膜の表情の加減を考えながら塗り、研ぎ出し、あるいは塗ることを止め、あらたにその道具たちの美しさを蘇らせる試みです。既に本体が在ることによって、それにどう従うか、作為を自ずと抑制せざるを得ない客観性も同時に今回の重要な点です。塗師として正攻法ではありませんが、むしろ現在の暮らしの空間とどう調和するのか、その視点による足し算、引き算ができる自由な眼を持っていることが岩下さんの魅力でしょう。今回は再生をテーマにしていますが、この初々しい感覚を体験して頂ければと思います。どうぞご高覧ください。 店主

料金後納
ゆうメール

岩下賢一 漆工展 REBORN
2024年6月22日(土)～29日(土)
作家在廊日 6月22日
11:00～18:00 最終日は17時迄

ギャラリー うつわノート
埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com

略歴
1983年 埼玉県川越市生まれ
2005年 桑沢デザイン研究所デザインを学ぶ
2008年 建築事務所にて商業空間に携わる(5年間)
2013年 埼玉県大宮市の盆栽園にて職人仕事に携わる
2014年 古家具の修理の仕事に携わる
2016年 輪島漆芸技術研究所にて塗り蒔絵を学ぶ
2020年 漆芸家 室瀬和美氏(重要無形文化財)に師事
2021年 塗師として独立
2022年 埼玉県ときがわ町にて活動
2024年 埼玉県から長野県に移住予定

岩下賢一 漆工展 REBORN
2024年6月22日(土)～29日(土)
作家在廊日 6月22日

GALLERY
うつわノート